



M.Takahashi

THE NHK MILE CUP

第30回 NHKマイルカップ (GI)

1着 本賞 130,000,000円 2着 付加賞 52,000,000円 3着 3,780,000円 4着 10,800,000円 5着 540,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

牡・牝、3歳、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 馬齢重量

2025.5.11 東京 晴・良 芝1600m (国際) (指定)

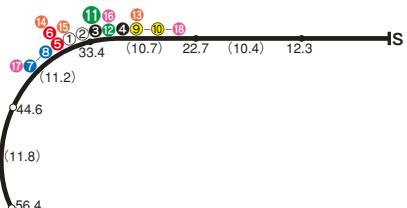
順位	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	コーナー	上り	馬体重	単勝オッズ	調教師	レーティング
					(着差)	通過順位 (600m)	(増減)				
1	⑪ パンジャタワー	牡3	57	松山弘平	1:31.7	10-9	34.2	480(-4)	26.1⑨	橋口慎介(栗東)	115
2	⑩ マジックサンズ	牡3	57	武 豊	アタマ	17-16	33.7	514(-2)	8.4③	須貝尚介(栗東)	114
3	③ チェルビアット	牝3	55	ディーメイ	ハナ	10-9	34.3	478(-4)	73.7⑩	高野友直(栗東)	110
4	① モンドデラモーレ	牡3	57	戸崎圭太	%	7-7	34.7	484(+2)	13.1⑥	千葉直人(美浦)	113
5	⑤ ランスオブカオス	牡3	57	吉村誠之助	1¼	4-6	35.0	494(-2)	8.8④	奥村 豊(栗東)	110
6	⑯ サトノカルナパリ	牡3	57	D.レーン	%	12-12	34.5	518(土0)	14.2⑦	堀 宣行(美浦)	109
7	⑫ マピュース	牝3	55	田辺裕信	アタマ	12-12	34.6	482(-4)	10.1⑤	和田勇介(美浦)	105
8	⑨ マイネルチケット	牡3	57	横山武史	ハナ	15-15	34.4	456(-2)	102.1⑬	宮 徹(栗東)	109
9	④ ヤンキーハローズ	牡3	57	岩田将望	%	14-12	34.6	476(-6)	39.8⑩	上村洋行(栗東)	107
10	⑩ コートアリジアン	牝3	55	菅原明良	%	18-18	34.1	432(-2)	45.4①	伊藤大士(美浦)	102
11	⑥ イミグランツソング	牡3	57	C.ルメール	ハナ	4-4	35.5	484(+2)	5.4②	辻 哲英(美浦)	106
12	⑯ ミニトランサット	牡3	57	鮫島亮駿	アタマ	15-16	34.5	466(-2)	104.8⑬	杉山佳明(栗東)	106
13	⑮ アルテヴェローチェ	牡3	57	佐々木大輔	%	7-7	35.3	456(-6)	16.3⑧	須貝尚介(栗東)	105
14	⑧ アドマイヤズーム	牡3	57	川田将雅	%	3-2	36.0	478(+2)	2.5①	友道康夫(栗東)	103
15	⑰ ウーレヴー	牝3	55	浜中 俊	2	1-1	36.6	472(-8)	181.7⑦	武幸四郎(栗東)	95
16	② ショウナンザナドウ	牝3	55	池添謙一	3	9-9	36.1	438(-2)	118.5⑤	松下武士(栗東)	89
17	④ ティラトーレ	牝3	55	木幡巧也	1½	4-4	36.8	488(+2)	201.0⑩	牧 光二(美浦)	86
18	⑦ フータルカラリティ	牡3	57	北村友一	5	2-2	37.7	464(-10)	167.2⑩	池添 学(栗東)	80

単勝①2,610円(9%) 復勝①850円(9%) ⑩390円(5%) ③1,560円(12%) 枠連⑤-⑥2,920円(13%)

馬連①-⑩20,740円(44%) ワイド①-⑩4,690円(41%) ③-⑩23,910円(100%) ③-⑩8,070円(57%)

馬単①-⑩39,730円(88%) 3連複③-⑩-①275,990円(346%) 3連単①-⑩-③1,505,950円(1,846%)

5重勝③⑤④⑩⑪89,022,270円(6票) 対象競走: 京都10R/東京10R/新潟11R/京都11R/東京11R



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
33.4 - 44.6 - 56.4 47.1 - 35.3

アラカルト

- ・松山弘平騎手はNHKマイルC初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算50勝目
- ・橋口慎介調教師はNHKマイルC初勝利。JRA重賞は本年3勝目、通算7勝目
- ・タワーオブロンドン産駒はJRA重賞通算2勝目
- ・牡馬の勝利は18年ケイアイノーテックから8年連続、通算25回目
- ・ティラトーレは競走中に疾病(鼻出血)を発症
- ・非抽選馬 4頭(スリールミニョン、ネーヴェフレスカ、マテンロウサン、ミートトゥビー)

パンジャタワー Panja Tower

牡

鹿毛 2022.2.21生

北海道新ひだか町 チャンピオンズファーム生産
馬主・株Deep Creek 栗東・橋口慎介厩舎
馬名意味・冠名+父名の一部

ソニンクGB系 B3		
タワーオブロンドン 鹿毛 2015	Raven's Pass 栗毛 2005	Elusive Quality
		Ascutney
	スノーバインGB 芦毛 2010	Dalakhani
		Shinko Hermes
クラークスデール 黒鹿毛 2016	ヴィクトワールビサ 黒鹿毛 2007	ネオユニヴァース
		ホワイトウォーターフェアGB
	アコースティクス 鹿毛 2001	Cape Cross
		ソニンクGB

5代までのインブリード: Machiavellian M4×M4 Mr.Prospector S5×M5×M5

INTERVIEW

菅原通次 専務取締役(チャンピオンズファーム)

GI初制覇は感動しかありません

牧場スタッフと一緒に競馬場で観戦。パドックではひと際目立ち、完璧だと思うぐらいの出来だったので自信はありました。ゴール後、自分ひとりだけ大泣きしてしまい恥ずかしかったですが、牧場にとってのGI初制覇はそれだけ嬉しいことで感動しかありません。レースを重ねながら成長していった本馬には今後の選択肢が広がりました。無事にいくことを願っています。



中京・芝1200mの新馬戦と京王杯2歳Sを連勝し、新種牡馬の父タワーオブロンドンに産駒初のJRA重賞制覇をもたらした本馬だが、続く朝日杯フューチュリティSは12着、巻き返しを期待され、1番人気の支持を集めたファルコンSも4着に敗れた。とはいってもこの日は、懸念された距離の不安を一掃する内容で前2戦の汚名を返上。7年前、不利が重なって12着(1番人気に沈んだ父の雪辱も果たし、3歳

父タワーオブロンドン

北海道日高町 ダーレー・ジャパン・ファーム有限会社生産 持込 中央、香18戦7勝(スプリンターズS G1、京王杯スプリングC G2、セントウルS G2、京王杯2歳S G2、アーリントンC G3)、21年から供用
〔代表産駒〕パンジャタワー(本馬)、アーリントンロウ(小倉2歳S G3 3着)

母クラークスデール

北海道芦平町 ノーザンファーム生産 不出走

タク(21 牡父デクラレーションオブウォーUSA)中央3戦0勝、地方5戦1勝

パンジャタワー 本馬(22 牡父タワーオブロンドン)中央5戦3勝(NHKマ

イルC G1、京王杯2歳S G2)獲得総賞金185,670,000円

(23 牡父デクラレーションオブウォーUSA)

(24 牡父ハイロUSA)

(25 牡父アドマイヤマーズ)

祖母アコースティクス

北海道早来町 ノーザンファーム生産 不出走。20年用途変更

ロジユニヴァース(06 牡父ネオユニヴァース)中央5勝(日本ダービーJn I、

弥生賞Jn II、ラジオNIKKEI杯2歳S Jn III、札幌2歳S Jn III、札幌記念C G2 2着)、最優秀3歳牡馬、種牡馬

ペントシレア(07 牡父ネオユニヴァース)中央2勝(栗島特別)、地方2勝、スティクス(知立S、汐留特別)の母

トーセンパワフル(10 牡父ネオユニヴァース)中央1勝(萩S G2 2着)、地方1勝

クラークスデール(16 前出)

アドマイヤザーゲ(18 牡父ドゥラメンテ)中央3勝(宮崎特別、黄菊賞)

曾祖母ソニンクGB

不出走。01年輸入、12年死亡、ノーザンリバー(さきたま杯Jn II 2回、東京盃Jn II、アーリントンC G3、種牡馬)、ランフォルセ(浦和記念Jn II、ダイオライト記念Jn II、エルムS G3)、ノットアローン(若葉S G3、ラジオNIKKEI賞Jn III 2着)、モンローブロンド(ファンタジーS G2 2着)の母。ディアドラ(秋華賞G1、ナッソーソ・英G1)、ジユーヌエコール(デイリー杯2歳S G2)、フリームファ

クシ(現きさらぎ賞G3)、リューベック(現若駒S・L)、ヴァイトプリック(兵庫チャンピオンシップJn II 2着)、ジャンカズマ(ダイヤモンドS G2 2着)、サンライズロナウド(京成杯オータムH G3 3着)、オデュッセウス(兵庫ジュニア

グランプリJn II 3着)の曾祖母、ソングライン(安田記念G1 2回、ヴィクトリアマイルG1)、スキルヴィング(青葉賞G2)の曾祖母

春の3歳マイル王決定戦・NHKマイルCは屈指の「荒れるGI」として知られ、過去に100万超えの高配当が4回も記録されている。2歳マイル王のアドマイヤズームが1番人気、二ユージーランドトロフィーの覇者イミグランツソングが2番人気と支持され、今年も、両馬は揃って二桁着順の大敗を喫し、レースは150万超えの高配当(3連単)が飛び出す大荒れの決着に。波乱劇の主役を演じたのは9番人気の伏兵パンジャタワーだった。

一番のダッシュで飛び出したランヌオブカオスをトータルクラリティがかわし、さらに3コーナーではヴーレヴィーが先手を奪取。確たる逃げ馬が見当

迎えた直線、坂の上りではアドマイヤズームが先頭に立つたが、追走に脚を使わされた同馬はそこから伸び切れず失速し、その後外持ち出されたモンドデラモードとパンジャタワーが抜け出しをはかる。脚勢が鈍ったモンドデラモードにかわり、ゴール前では最内を突いたマジックサンズと馬群を捌いて追い込んだチエルビアットが強襲。しかしパンジャタワーも応戦するよう伸びて2頭の追撃を凌ぎきり、横一線の接戦に競り勝った。

中京・芝1200mの新馬戦と京王杯2歳Sを連勝し、新種牡馬の父タワーオブロンドンに産駒初のJRA重賞制覇をもたらした本馬だが、続く朝日杯フューチュリティSは12着、巻き返しを期待され、1番人気の支持を集めたファルコンSも4着に敗れた。とはいってもこの日は、懸念された距離の不安を一掃する内容で前2戦の汚名を返上。7年前、不利が重なって12着(1番人気に沈んだ父の雪辱も果たし、3歳

9番人気の伏兵が横一線の攻防を制す